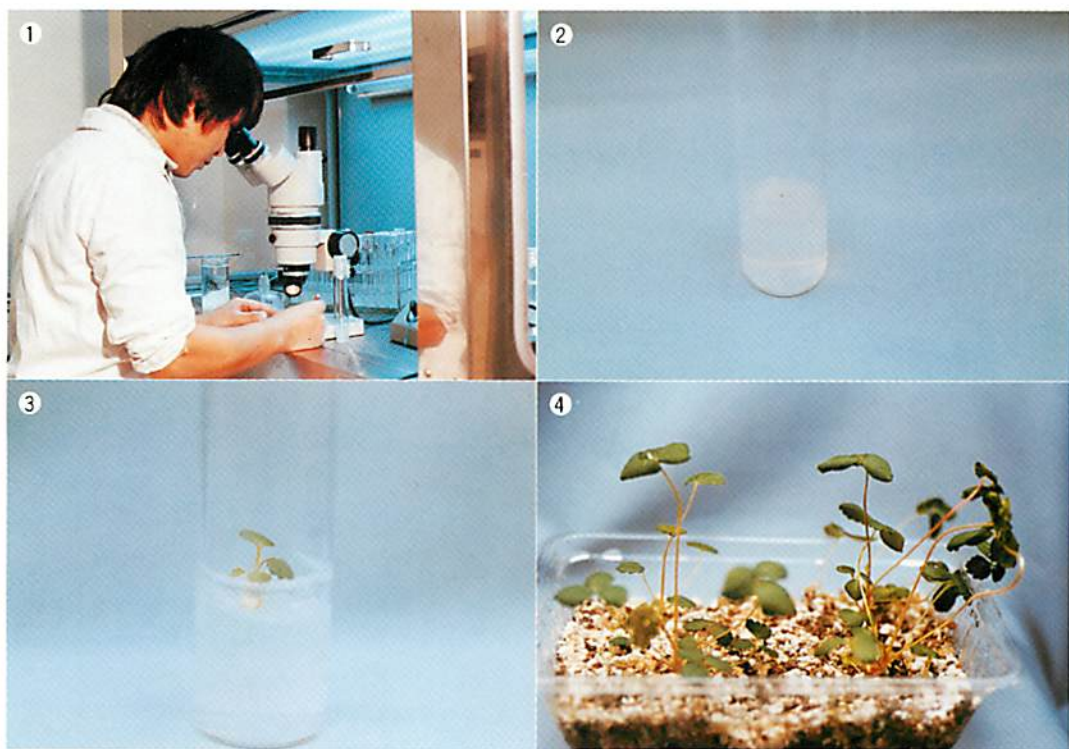


農総試ニュース

第2号

1984. 11



イチゴのウィルスフリー株茎頂培養 ①生長点採取 ②生長点肥大 ③展葉 ④順化

主な内容

- 場長就任にあたり
- 収穫後ホウレンソウのビタミンCの変化
- 受精卵移植による子牛誕生
- 暖地リングとオウトウの現地適応性
- 場内トピックス(新野菜、ヤノネ天敵、簡易被覆、イグサ廃液処理)
- 人のうごき

就 任 に あ た り

場 長 石 田 良 晴



このたび、初代沢邊場長、第2代市原場長のあとを引き継ぐこととなり、職員一同力をあわせて、さらに進展させたいと願っている。関係各位のご指導と格別のご協力をいただきたい。

当場は58年度をもって施設整備をすべて完了し、また試験研究の面では企画調整部門を軸に、各研究所が有機的な連けいをとり、これからの研究の充実と総合化による実効をあげる段階をむかえている。

きびしい農業の情勢下にあつて、新しい技術によせられる期待と夢は、はかり知れないものがある。

る。

総合試験場として、多数の分野・部門にまたがる研究の深化をはかりながら、複雑な農業の現場に適應できる巾広い技術の組立てをめざしたい。バイオテクノロジー等に関する先端技術への対応も緒についたばかりであり、長期的視点に立った研究開発を必要とするであろう。

市街地からはなれ、交通の便はかならずしも良くないが、場への来訪者・視察者が数多く、この1年間12,000人もの方々においてをいただいたことになる。さらに倍增することを期待するとともに、農業者や指導者は勿論のこと、老人会・婦人会など一般市民各層からも広く活用され、愛される親しみやすい試験場へと育てあげたいものである。

研究の紹介

収穫後ホウレンソウのビタミンCの変化

野菜の中でもホウレンソウはビタミンCに富むものの一つであり、含有量はレタスの10倍程にも達する。しかし、ホウレンソウも一般の青果物と同様、収穫後も呼吸や物質代謝等の生活作用を行っているためビタミンCを始め、内容成分に種々の変化が起こる。したがって、収穫してから食卓にのぼるまでの間に、出来るだけビタミンCの損失を少なくするような配慮が必要となる。

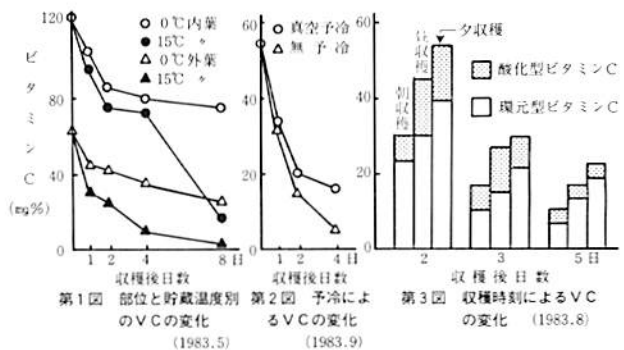
部位別にみた場合、外葉より内葉（幼葉）の方がビタミンC含量は高い。両部位とも収穫後、急激なビタミンC含量の低下を示すが、低温で貯蔵した方が低下の速度は緩やかである。（第1図）

ビタミンCの収穫後の減少は急であるが、この減少は真空予冷することにより、若干抑制されることがうかがわれる。（第2図）

収穫時刻の違いによるビタミンC含量変化は、夕方収穫のホウレンソウはビタミンC含量が最も

高い上に収穫から出荷までの時間が短いためビタミンCの保持は最も良好であった。（第3図）

これらのことから、見た目の鮮度だけではなく、栄養面までも含めた鮮度を保持するには、収穫は夕方行い、その後は真空予冷などできるだけすばやく品温を低下させ、その後も確実に保冷を行うことが望ましい。



受精卵移植による子牛誕生！

畜産分野においても、最近のバイオテクノロジーの進展はめざましく、牛の受精卵移植の研究に大きな期待が寄せられている。

当場においても、昭和58年度から関係機関とプロジェクトチームを編成し、受精卵移植技術の研究に着手、昨年12月、受胎に成功した。この受胎牛から、今年の9月中旬に当場で1頭、粕屋町の因牧場で1頭が相次いで誕生し、受精卵移植実用化の第一歩を踏みだした。従来は、優良雌牛でも1年1頭しか生産できなかったものを、ホルモン注射の過排卵処理で優良受精卵を多数採取し、借り腹牛に移植することにより、同時に何頭も生産することができ、乳牛・肉牛の画期的な改良が可能となった。

なお、昭和59年度から受精卵移植技術利用促進事業を実施して、年間約100頭の移植を計画しており、また、研究開発面では、受精卵凍結による長期保存、受精卵の分割技術に取り組んでいる。



受卵牛 子牛(おす)、子牛(めす) 供卵牛(かり腹牛)

受精卵移植で生れた子牛

暖地リンゴとオウトウの現地適応性

福岡県のリンゴ栽培面積は、昭和57年度22ha強で、更に植栽が進められている。比較的多く栽培されている品種は、早生種では花祝、つがる、中生種では千秋、陽光、ジョナゴールド、晩生種ではふじである。

樹令は3～4年生が多く、結実を始めたばかりである。県内産リンゴは、主産地の長野県、青森県産が出回らない時期に出荷するよう早生系をねらいとしているが、高温時期のため着色不良及び

日焼け現象が今後の問題点である。

オウトウは、本県でも一部農家で栽培が試みられているが、開花後の花ぶるいと結実後の生理落果が著しく、生産が不安定であるので、暖地に適応した栽培技術の確立が必要である。

現在導入されている品種の中では、シナミザクラは結実良好で、5月中～下旬に多量に収穫され、適応性にすぐれることが確認された。

嘉穂町産リンゴの品質特性 (昭和59年)

品 種 名	収 穫 期	果 実 重	果 皮 色	果 汁 糖 度	リンゴ酸量
		(g)	(カラーチャート)	(°)	(%)
ジャージマック	7月下旬～8月上旬	190	4.3	10.2	0.46
つ が る	8月中～下旬	284	2.7	13.4	0.24
ジョナゴールド	9月下旬～10月上旬	376	3.5	13.3	0.54
ふ じ	10月中～下旬	404	3.5	13.6	0.39

場内トピックス

普及の見込まれる新野菜

夏季の野菜不足対策として実施中の新野菜導入試験結果から、暑さに強くて作り易く、ビタミン類の豊富なエンサイとヒユナが適応性の高いことが確認された。これらは5～7月に播種、10月頃まで順次摘みとり、長期にわたる収穫が可能である。このほか、チンゲンサイ、夏3号ハクサイも商品性の高い手頃な大きさで収穫すれば経済栽培が可能と判断された。

ヤノネカイガラムシに対する中国産天敵の増殖

カンキツの主要害虫であるヤノネカイガラムシに寄生するヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチの2種天敵が、昭和55年に中国より導入されて以来、各地の試験場でその有効性が確認されている。現在、試験場内と県内3ヶ所で天敵を増殖し、発生園に配布することにしており、ヤノネカイガラムシが農薬の散布をしないうで撲滅できる日も近いと期待している

人の動き

- 異動 (59. 6. 1付) (新所属)
深見 義浩(農産研究所) 北畠 政己(畜産研究所)
小河 淳史(畜産研究所) 古賀 敏幸(畜産研究所)
荒巻 繁義(筑後分場)
退職 (59. 8. 15付)
市原 淳吉(場長)
異動 (59. 8. 16付)
石田 良晴(場長)
矢野 孝雄(副場長兼企画調整室長)
退職 (59. 10. 1付)
山根 弘康(農水省果試安芸津支場へ)
異動
角 利昭(園芸・専研)

モモ、ナシの簡易被覆栽培(中核)研究に着手

早生モモ、ナシは温暖多雨の気象条件が病害虫及び生理障害を多発させ、生産を不安定にしている。この多雨に起因する不良環境を除き、生産の安定、果実品質向上を図るとともに、温暖な気候を有効に利用して熟期の促進を図り、経営を改善する必要がある。このため生育期の温度管理及び土壤水分管理法等を中心に中核研究を組み、新しい栽培体系の試験に着手した。

イグサ染色廃液処理法の研究実る!

筑後分場では、昭和57年から3ヶ年にわたって総合助成のもとに染色廃液処理法の確立、処理装置の開発に取り組んできた。その結果、活性汚泥法による回分式処理装置を開発し実用化の目途がついた。この研究の成果に寄せる染色農家の期待は大きい。

海外出張

- 浜地 勇次(農産・技師)
「日中青年友好交歓」のため9月23日から10月4日まで中華人民共和国へ
藤島 直樹(畜産・専研)
「昭和59年度福岡県職員海外派遣研修」のため11月3日から11月17日までドイツ連邦共和国他6ヶ国へ
角 利昭(園芸・専研)
「有用遺伝資源の探索導入に関する海外調査」のため11月4日から12月3日までアメリカ合衆国へ

農総試ニュース No.2

昭和59年11月27日
印刷・製本 プリント九州有限会社

編集発行 福岡県農業総合試験場
場長 石田 良晴
〒818 福岡県筑紫野市大字吉木587
電話 092-924-2936 (企画調整室)